



opinion

## 伝統技術・織物産地を後世に

宮士山の麓に広がる郡内地域は、古くから織物が盛んに行われ、その製品は郡内織物と呼ばれ、西桂織物工業協同組合も産地の一角をなしてきました。郡内織物の伝統技術は、糸にしたものを染色してから織り成し織物に仕上げる先染織物が特徴で、織物業者は機屋(はたや)と呼ばれ、この技術は今も地域にしっかりと受け継がれています。

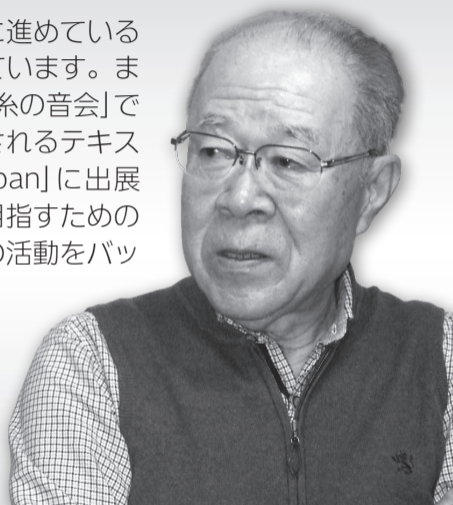
私は、伝統技術に支えられた織物産地を後世に残していくことが組合の果たす役割だと考えています。

確かに郡内の織物産地を支えてきた織物業者数は、国内の他の産地や海外産地との競争が激化する中で激減し、当組合も御多分に漏れず組合員の減少が続いています。

しかし、組合員の中には、後継者が機屋を継ぎ最新鋭の織機などの設備投資を積極的に行っているところもあります。また、ニューヨークやパリ、ミラノなどの海外の展示会に単独で出展しOEM(委託先のブランド名の製品を生産する事業者)からの

脱却を図るために自社ブランドの確立を積極的に進めている活気に満ちた機屋も出始めており、私も期待しています。また、一方で若手経営者や後継者で組織している「糸の音会」では、春秋の年2回「東京国際フォーラム」で開催されるテキスタイルビジネス商談会の「Premium Textile Japan」に出展し、産地のピーアールと自社ブランドの確立を目指すための事業を展開しており、親組合としても糸の音会の活動をバックアップしています。

私は、このような伝統技術に支えられた織物産地を後世に残していくには、OEMからの脱却を図る自社ブランド確立の事業を組合のコアに据え、後継者育成を展開していくことが必要だと考えています。



西桂織物工業協同組合 理事長 榎田 則夫 氏